

The *PATHOS* magazine of Kumamoto General Hospital

独立行政法人  
地域医療機能推進機構 (JCHO) 熊本総合病院だより

# ぱとす



第49号  
2025年  
夏号

Volume 13 Number 3 July 2025

真夏日でも木陰で心地よく散歩できる 6階の空中庭園 (1周 100m)



病院長あいさつ 産科医師着任挨拶 放射線治療機紹介 無痛MRI 乳がん検診 病診連携会報告

## 正気の沙汰

日本は例年になく早くも厳しい真夏に突入し、また、世界情勢は徐々にきな臭くなってきております。特に、ウクライナ戦争が終結しない中、イスラエル・イラン紛争が勃発し、トランプ大統領の仲介により6月23日に停戦合意が発表されましたが、両国とも「停戦は発効している」と認めているものの、相互の違反攻撃が報じられ、依然として不安定な状況です。現時点では、停戦は持続しているものの脆く、将来も継続されるかは不透明の状態のようでございますが、皆さま方におかれましては引き続きご清祥のことと拝察申し上げます。



このような情勢の中、当院は、皆さま方のご支援の下、一丸となってさらに質の高い急性期医療の実践を行ないながら、「まちづくり」にも貢献するように最大限の努力をしております。そして、このように努力できますことは、医師会、熊本大学教授陣、国・県・市行政ならびに市民の皆さま方のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

ところで、2025年現在、公的病院の経営状況は軒並み厳しく、多くの病院で赤字が拡大しています。

ご承知の通り、病院の収入を左右する最大の要素は診療報酬ですが、その水準と配分が直接的に病院経営を左右します。ところが、政府はいつものことながら、医療費増大を抑えるため、診療報酬を下げるように厳しくコントロールしております。いわゆる「一旦その気にさせた後の梯子外し」が国のいつもの手口です。従いまして、その診療報酬の抑制政策と現場の負担増のギャップが病院の経営難を深刻化させているのが現状でございます。

国は、そのような病院の厳しい状況下をよそに、病院に対して「質の高い医療を国民に」を声高らかに謳い、病院の努力はそっちのけなのに「日本の医療の質は世界に冠たるもの」と我が功績の如くに胸を張っていることは誠に遺憾であります。

一方、可哀想なるかな、それでも従順な公的病院は、本気になって「質の高い医療を国民に」を追求し、①施設整備、②高額医療機器整備、③人事院勧告に従った医師・看護師・コメディカル・事務部の人件費上昇、④電子カルテなどICT化の高額投資負担、などを唯々諾々と行っておりますので、診療報酬の抑制政策と現場の負担増の大きなギャップが生まれ、病院は奈落の底に落ちていっているところでございます。

どうか、早急に、「質の高い医療を国民に提供するための現場の負担増」に見合う診療報酬の適正改正への「正気の沙汰政策」が行われることを、心から願います。

因みに、前出のトランプも、世界の医学研究界をリードするNIH（アメリカ国立衛生研究所）にもその予算を6.6兆円から4兆円に40%も減額し、内部に24ある研究所を、私が在籍していた癌研究所（NCI）ほか4つのセンターに集約する！そうで、とても正気の沙汰とは思えません。

さておき、わたくし共の熊本総合病院は、異常に早い梅雨明けに続くこの真夏日も引き続き全職員が一丸となって、「医療とともに、公に一肌脱ぎ」ながら「医療のみならずまちづくりにも貢献する」意気込みで、地方創生・人口増加・少子化阻止にも少しでも寄与できるように、さらに精進して参ります。本年度も、皆さま方の格別のご支援を何卒宜しくお願い申し上げますとともに、皆さま方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

令和7年7月吉日

# 熊本総合病院の産科にできること

副院長・産科診療部長 大場 隆

今年4月に熊本総合病院産科に着任いたしました大場です。熊本総合病院の産科が八代圏域の医療に果たす役割についてご紹介します。

## 1. リスクを持つ妊婦さんの妊娠管理

妊娠や出産の途中で異常が発生したときは高次医療機関に紹介できる連携体制が必要です。高次医療機関の代表である周産期母子医療センターはすべて熊本市内に集中していて、八代圏域にも作るのが理想ですが多少時間がかかります。まずは当院のさまざまな診療科と協力し、**リスクを持つ妊婦さんが地元で安心して妊婦健診を受けられる体制を作っています**。思春期女性の月経や月経に伴う諸症状への対応を含めた、**将来安全に妊娠出産できるようお手伝いするプレコンセプションケアにも対応します**。

## 2. 出生前診断

生まれてくる児の3-5%には何らかの先天的な異常があります。もっとも多い異常は**先天性心疾患**で、生まれる前に疑うことができたかどうかはその子の将来を左右する場合があります。また**ダウン症候群の出生前診断**については様々な倫理的な課題が残されていますが、検査を希望される妊婦さんは増えています。当院では今年度より**超音波による出生前検査を始めています**。新型出生前診断(NIPT)は10月開始予定です。ご夫婦には、出生前診断を受けるかどうか、受けるとしたら何を受けるかということ、遺伝診療を専門とするスタッフと時間をかけてご相談いただくことができます。

また**遺伝情報を調べる検査は近年急速に拡大**しています。産婦人科は遺伝子検査に関わるさまざまな悩みや不安との関わりも深い診療科です。**遺伝に関わる疑問がありましたら産婦人科のことに限らず気軽にご相談ください**。



産科婦人科医師および病棟スタッフと赤ちゃん（大場副院長：左から3人目）

# 新しい放射線治療機のご紹介

放射線治療センター長 古澤 光浩

近年、がん治療の選択肢の1つとして、放射線治療の重要性が高まっています。この度当院では放射線治療機の更新を行い、**varian社の高精度放射線治療装置「TrueBeam」**を導入いたしましたので紹介させていただきます。

「TrueBeam」では従来の装置と比較して**高い線量率**での照射が可能です。そのため1回の治療にかかる時間が短縮し、**患者さんの身体的、精神的負担を軽減**します。

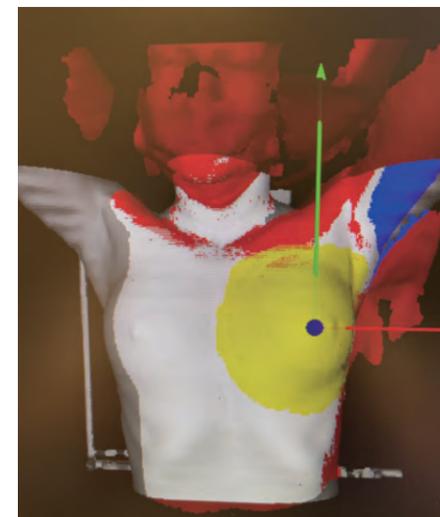
治療部位の位置合わせは、従来消えにくいマジックで線をたくさん描いて行ってきましたが、今回「**identify**」という体表モニタリングシステムを導入したことで、通常照射での**マーキング部位を減らしかつ精度の高い位置合わせが可能**となりました。また当院では左側乳がんの温存術後照射の際に心臓への被曝を減らすための**深吸気息止め照射(DIBH)**にも行っていますが、そこでもこのシステムが利用されています。

以前から行っていた**画像誘導放射線治療(IGRT)**もより高精度となり、より**正確に腫瘍に放射線を集中させ正常組織へのダメージを最小限に抑える**ことができるようになりました。また、今回新たに**強度変調放射線治療(IMRT)**にも対応しており、特に**頭頸部がん、前立腺がん**などで正常組織へのダメージを減らしつつ腫瘍への線量増加をはかるような治療も可能となっています。こちらは条件が整い次第導入したいと考えています。

私たちは新しい治療機の導入により、患者さん一人ひとりに**最適なより質の高い治療**を提供し、八代の医療に貢献してまいります。



TrueBeam



identifyによる体表モニタリング



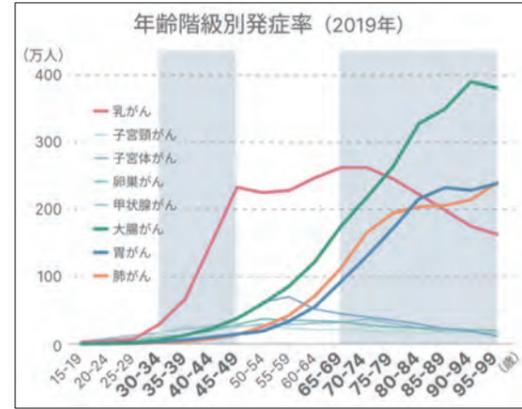
放射線治療センタースタッフ（古澤センター長：前列中央）

# 痛みのない乳がん検診、しかも高い診断能力！ 「無痛MRI乳がん検診」始めました

健康管理センター長 本島 寛之

## 「乳がん」のことをもっと意識してほしい

乳がんは、母性のシンボルである乳房に発生する悪性腫瘍です。女性が最もかかりやすいのが乳がんです。最新の統計では、なんと**女性の全がんの22.5%**を占め、**9人に1人**が乳がんの苦しみや痛み、絶望を体験されているのです。高い罹患率の乳がんを早期発見するために、国は2年に一度の乳がん検診を推奨しています。早期診断できれば、治療による救命率と乳房温存の確率を高くすることができますし、身体に残る傷も小さくできます。



## 「乳がん」は、もっと小さいサイズで、もっと早期の段階で、診断できます

乳がんの治療法は確立しており、成績も優れていることが知られています。一方、乳がん検診を適切な頻度で受けている人の数は不十分で、早期発見の阻害因子と言われています。なぜに適切な頻度で検査を受けて頂けないのでしょうか？ その原因の一部が、「挟まれて痛い!」、「見られて、恥ずかしい!」という従来検査マンモグラフィの隠れた欠点に由来しています。



当院で開始した「無痛MRI乳がん検診」では、乳房の圧迫は無いので「無痛!」、Tシャツや検査衣を着たままで検査できるので「見られないし、恥ずかしくない」のです。しかも、高解像、高分解能、高診断力を持つ検査（がん検出率はなんと5倍!）なので、従来よりも小さなサイズで、より早期の段階での「乳がん」を発見できるのです。つまり、救命率と乳房温存の確率もどんどん高くすることが期待されるのです。

## 「乳がん検診」を適切な頻度で、積極的に受けてほしい

女性はご自身の健康のため、ご家族の幸せのためにも、もっと積極的に適切な頻度で「乳がん検診」を受けて頂きたいと考えています。男性の方も「乳がん検診」の受診率を上昇させるため、「乳がん検診、ちゃんと受けよるね?」と身近な大切な女性へのお声がけをお願い致します。

当院では、従来からの「マンモグラフィや超音波検査」も熟練した技術で提供していますし、熊本県内で初導入の「無痛MRI乳がん検診」も受けることが可能です。医療者からの「乳がん検診」お声がけは大変貴重です。「無痛MRI乳がん検診」て知っとるね?、というお言葉かけも宜しく願います。

# 第10回 熊本総合病院病診連携会について ～地域医療連携室より～

第10回熊本総合病院病診連携会を5月21日(水)に開催致しました。当日はあいにくの天候にも関わらず67名の先生方にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

前半は島田病院長より日頃の病診連携に対する感謝の言葉の後、木村県知事と熊本大学小川学長をお招きして行いました「第80回熊本総合病院市民公開講座」の報告がありました。

病診連携講座では新たに診療部長に着任した産科婦人科の大場隆副院長、泌尿器科の福井秀幸診療部長、腎センターの内村幸平診療部長による講演が行われ、医療連携や各科の専門的な治療、取組みについて紹介する機会となりました。



島田病院長挨拶

新任医師の紹介後、早々に後半の懇親会へと移りました。西八代医師会長の乾杯のご発声の後、田淵先生バンドによる生演奏をお楽しみいただき、Face-to-faceで当院の医師・スタッフとの活発な意見交換が行われました。ご参加の皆さまからは大変貴重なご意見や激励の言葉を頂戴し感謝申し上げます。峯苦八代郡市医師会長の中締めをいただき、病診連携会は盛況のうちに無事閉会いたしました。

地域医療連携室では、病棟専任スタッフによる退院支援を行っており、外来患者さまからのご相談にも随時対応しております。また、先生方からご紹介いただいた患者さまに関するお返事が迅速かつ確実にできるよう更に努めてまいります。今後ともご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



当院医師による病診連携講座

## こんにちは赤ちゃん

ご出産おめでとございます 多くのかわいい赤ちゃんが出生されています。



## SNSをはじめました

当院の公式 X (旧 Twitter) アカウントを開設しました。

安心と信頼の医療をお届けするため、病院からのお知らせや健康情報、地域の皆さまにご参加いただけるイベント情報などをタイムリーに発信してまいります。

皆さまにとって、より身近で役立つ情報をお届けできるよう努めてまいります。

ぜひフォローして最新情報をご覧ください。



Xのフォローはこちらから  
@KumamotoGnlHp

## 急変時対応研修会

急変はいつでも・どこでも起こる可能性があり、急変に遭遇した職員の初期対応が重要です。だれでも初期対応ができるよう、職種を問わず病院全職員に急変時対応研修会を実施しています。



胸骨圧迫・AED使用の指導

# 駐車場のご利用について

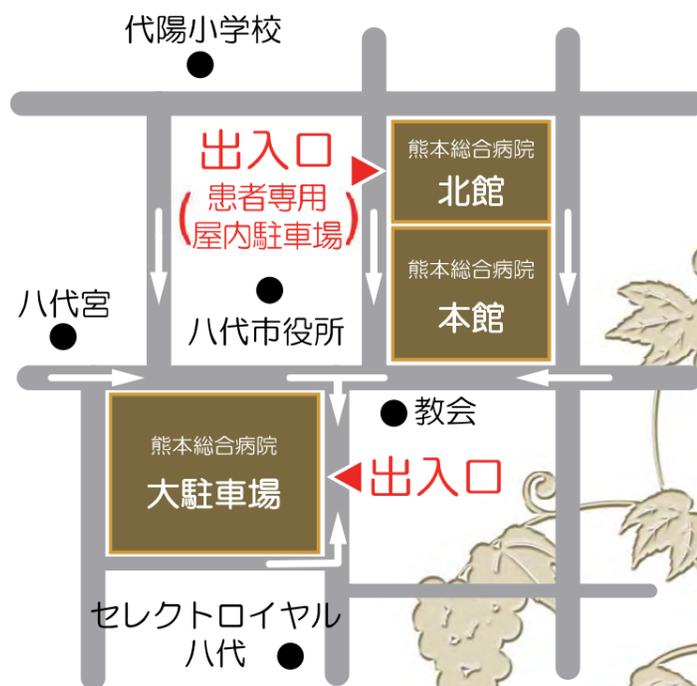
## 患者専用駐車場

熊本総合病院北館1階に患者専用駐車場をご用意しております。屋内の駐車場ですので天候に左右されずご利用いただけます。無料ですが、認証が必要です。

## 大駐車場

基本的に無料ですが、平日は当院による認証が必要となっております。土日祝日は市街地活性化のために認証不要です。

22時以降の駐車はできません。(以降は高額な駐車料となります)



# JCHO 熊本総合病院

〒866-8660 熊本県八代市通町10番10号

電話 0965-32-7111(代表)

FAX 0965-32-2772

URL <https://kumamoto.jcho.go.jp/>

発行日: 令和7年7月10日

発行責任者: 病院長 島田信也

